

研究会用資料  
部 外 秘

# AWG量子治療研究資料

〈病名〉

# 胃がん 1

〈症状〉

がん性疼痛、胃潰瘍、高コレステロール血症、顔面皮膚色素沈着、悪疫質、  
アルツハイマー型認知症、低蛋白血症、激しい嘔気嘔吐、食欲不振、糖尿病

氏名：○浦 ○夫	性別：男	年齢：78才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

昨年、12月28日から近医総合病院に入院し、胃がんと診断され、抗がん剤の点滴治療を受けた。

本年1月26日に当クリニックを初診となりました。

初診時、腹部の疼痛を感じていましたが、AWG治療を一回行っただけで、痛みを感じることがなくなったと言っていました。2回目受診時（本年2月2日）は、腹痛は完全に消失していました。認知症があり、十分ぐらい経つと説明したことを忘れるようで、2/16～近医総合病院で抗がん剤の治療を受けた可能性があります。

3/15～AWGの治療を継続しています。AWG治療後は、非常に気分が良くなるそうです。

貧血があるため、HbA1cの値は、当てにならず、グリコアルブミンで血糖の変動を測定した。

AWGのプロトコール：

免疫向上 7012 39分とアシドーシス改善 7003 36分を交互に行う。

大腸菌 7032 27分

胃炎 7137 42分

がん（EBウイルス） 7115 45分

ブドウ球菌 7289 30分

アルコール中毒 7010 24分

蟻虫、蠕虫 7249 36分

合計 291分（免疫向上時）または、288分（アシドーシス改善時）

内服薬：シンバスタチン（5）1T1×朝食後、血管新生抑制目的で投与

シナール 4T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与

ハイチオール（80） 2T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与

エカベトナトリウム 3g2×朝夕食後、ウレアーゼ活性阻害目的で投与

タケキャブ（10） 1Cap1×朝食後、胃酸分泌抑制目的で投与

CPLは、一日10gで継続内服しているとのこと。

〈病名〉

# 胃がん 2-1

〈症状〉

がん性疼痛、胃潰瘍、高コレステロール血症、顔面皮膚色素沈着、悪疫質、高LDH血症、味覚障害、低蛋白血症、両下肢浮腫、激しい嘔気嘔吐、食欲不振、亜鉛欠乏症、境界型糖尿病

氏名：○橋 ○一	性別：男	年齢：65才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG使用前後の経緯〉

経過：昨年、12月頃から胃腸の調子が悪く、食事が食べられなくなり、仕事に差し支えるようになり、顕著な体重減少と盗汗をしばしば、認めていました。

本年1月17日に会社の健康診断（近医総合病院で実施）で高血圧他の異常を指摘され、近くの胃腸科の診療所にかかった所、消化管悪性腫瘍が強く疑われるとのことで、健康診断を行った総合病院の受診を勧められましたが、三大療法が体の負担になることを私の動画を見て知り、総合病院を受診せず、本年1月26日当クリニックを初診となりました。初診時、腹部の激痛を感じていましたが、AWG治療を一回行っただけで、痛みを感じることがなくなったと言っていました。

2回目受診時（本年2月16日）は、腹痛は自制内でしたがまだありました。

AWG治療後は疼痛が消失しました。

3回目受診時には、腹痛は完全に消失していました。

ただ下肢の浮腫は、酷かったので、AWGの治療を継続しています。

AWG治療後は、非常に気分が良くなるそうです。

現在、運転の仕事を休んで、治療に専念すると申しています。

体重減少：一年半で5Kgの体重減少を自覚する。

〈病名〉

# 胃がん 2-2

〈症状〉

がん性疼痛、胃潰瘍、高コレステロール血症、顔面皮膚色素沈着、悪疫質、高LDH血症、味覚障害、低蛋白血症、両下肢浮腫、激しい嘔気嘔吐、食欲不振、亜鉛欠乏症、境界型糖尿病

氏名：○橋 ○一	性別：男	年齢：65才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG使用前後の経緯〉

AWGのプロトコール：

免疫向上 7012 39分とアシドーシス改善 7003 36分を交互に行う。

大腸菌 7032	27分
胃炎 7137	42分
がん（EBウイルス） 7115	45分
ブドウ球菌 7289	30分
アルコール中毒 7010	24分
蟻虫、蠕虫 7249	36分
腹水 むくみ 7300	45分
合計	336分（免疫向上時）または、333分（アシドーシス改善時）

内服薬：シンバスタチン（5）1T1×朝食後、血管新生抑制目的で投与

シナール	4T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与
ハイチオール（80）	2T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与
セレコックス（100）	2T2×朝夕食後、血管新生抑制目的で投与
プロマックD（75）	2T2×朝夕食後、亜鉛欠乏を補完する目的で投与
レバミピド	3T3×毎食後、胃粘膜保護目的で投与
タケキャブ（10）	1Cap1×朝食後、胃酸分泌抑制目的で投与

点滴治療（初回のみ）

アミゼット 400ml+ダイビタミックス 1A+アスコルビン酸 1A+プリンペラン 1A+ノバミン 1A  
静脈ラインにて投与

〈病名〉

# 胃がん 3

〈症状〉

がん性疼痛、胃潰瘍、貧血（出血性？）、低蛋白血症

氏名：○本 ○江	性別：女	年齢：62才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2017年7月5日、末期胃がんと診断され、バイパス術施行される。その際、腹膜播種も指摘されていた。少量ながら食事摂取できるようになったため、自宅療養していた。

2017年10/5 微熱37.0°C（平熱36.2°C）と食欲不振、心窓部痛を主訴に当クリニックを受診された。同日、AWG治療を開始した。

10/14にもAWG治療を行ったが、治療直後は、疼痛が緩和されるものの、時間が経つと疼痛復活し、通院が不能となったため、AWGの自宅レンタルを開始した。

同時期より、近医総合病院より、オキシコンチンの投与が開始された。

レンタル後、疼痛は緩和されたとの連絡を受けたが、その後は連絡なし。

CPL（環状重合乳酸）サプリを2017 10/5～内服していたが、内服不能になったとの連絡を受けた。

AWGのプロトコール：

免疫向上 7012 39分とアシドーシス改善 7003 36分を交互に行う。

ウイルス性疾患 7324 36分

がん（EBウイルス） 7115 45分

がん（肉腫） 7057 18分

がん（ウイルス性） 7064 12分

がん（全般） 7058 6分

がん（スキルス） 7059 9分

血漿、リンパ漿浄化 7251 9分

合計 174分（免疫向上時）または、171分（アシドーシス改善時）

内服薬：シンバスタチン（5）1T1×朝食後、新生血管阻害目的で投与

ボルタレン（25）3T3×毎食後、新生血管阻害、疼痛改善目的で投与

リンゼス（0.25）2T1×夕食前、便秘改善目的で投与

〈病名〉

# 乳がん

〈症状〉

がん性疼痛、骨転移、顔面皮膚色素沈着

氏名：○田 ○子	性別：女	年齢：68才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2010年2月3日、エコー、マンモグラフィー、MRIにて乳がん強く疑われ、2月15日針生検にて、HER2 - ER+ PgR+と確定診断される。

3/24右乳房手術施行、手術時のリンパ節転移なし。2015年5/13 MRIにてL2骨転移指摘される。

同年6/25～7/1サイバーナイフ5回施行するも、腰椎の疼痛収まらず、トラマール（オピオイド製剤）にて疼痛緩和を図るも、それでも痛みが取れなかった。

L2での骨転移は2015年8/13PETでも確認され、その後のPET等でもL4やL5棘突起の転移を指摘される。

2017年1/20～当クリニックにてAWG治療を開始し、1/24 2/2 2/9 2/20 3/7の6回のAWG治療で腰椎の疼痛完全消失し、同年7/1のPETで転移巣を確認できなかった。

トラマールを中止してCPL（環状重合乳酸）サプリを2015 9/4～継続して内服していた。  
疼痛消失に寄与した可能性はある。

AWGのプロトコール：

免疫向上 7012 39分とアシドーシス改善 7003 36分を交互に行う。

腰痛 7201 39分

腰椎 7202 24分

乳がん 7044 27分

乳房全般 7289 9分

合計 123分（免疫向上時）または、120分（アシドーシス改善時）

内服薬：シナール 4T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与

ハイチオール（80） 2T2×朝夕食後、副腎疲労改善目的で投与

ユベラN（200） 3Cap3×毎食後、末梢循環改善目的で投与

〈病名〉

# 前立腺がん

〈症状〉

がん性疼痛、胃潰瘍、高コレステロール血症、境界型糖尿病、本態性高血圧症

氏名：○田 ○昭	性別：男	年齢：59才	病院・医師名：Sクリニック
----------	------	--------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2016、11月17日軽い排尿困難と尿道痛を訴えた。

この時、PSA16.2と上昇しており、同年11月21日、近医総合病院でバルーンカテーテルを挿入された。この日バルーンカテーテル挿入後も尿道の灼熱痛を覚えた。

この日以降、サプリメントのCPLを内服している。2017年1/21AWG治療を行っただけで、痛みを感じることがなくなったと言っていました。

1/28、2/6、2/15、3/1、4/6の計6回AWG治療を行った。

その後、PSA値が下降したため、AWGの治療を終了した。

AWG治療後は、非常に気分が良くなるそうです。

AWGのプロトコール：

免疫向上 7012 39分とアシドーシス改善 7003 36分を交互に行う。

ウイルス一般 7324 36分

前立腺 7257 21分

腫瘍（全般） 7318 24分

合計 120分（免疫向上時）または、117分（アシドーシス改善時）

内服薬：シンバスタチン（5）1T1×朝食後、血管新生抑制目的で投与

カプトリル（25） 1T1×朝夕食後、高血圧改善目的で投与

アボルブ 1Cap1×朝食後、前立腺肥大改善目的で投与

CPLは、一日10gで内服していたが、PSAが下がってから一日3gに減量した。

〈病名〉

## 肺の非結核性の好酸菌症

〈症状〉

2005.4.8 初診  
(H17) 右下 6.7 部に数年前インプラントを 2 本植立。  
植立当初から動搖や噛みにくさの訴えがあった為  
同年 5 月 23 日連続冠をはずし、人工歯根療法を行う  
(右下 6.7 間に人工歯根療法 1 本植立)

氏名: S.T.	性別: 男	年齢: 64 才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

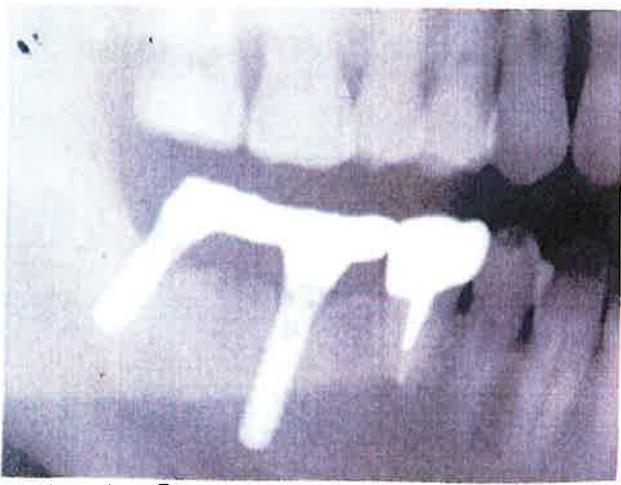
2012 年 6 月

(H24) 右下 6.7 部の剥離搔爬術を行い、写真撮影を行うと右下 6.7 部の  
インプラント周囲の骨は滝壺状に破壊されていた。  
骨癒着型インプラントは骨の破壊的リモデリングにより感染を  
おこさない状態で破壊される。  
図に示すようにまるで強酸によって脱灰されたかのようにミネラルは  
消失し、骨の硬タンパク質の結合組織のみで覆われていた。

2015 年 5 月 11 日

(H27) 他院にて肺の非結核性の好酸菌症と診断され当院に来院。  
再度右下 6.7 部インプラントの剥離搔爬術を行い、その部位を  
電子顕微鏡で確認すると図のように肺の病巣と同じ菌が発見された。  
右下 6.7 インプラント周囲の骨破壊部に再度離搔爬術後  
ビドロキシアパタイト骨顆粒を填入し、効抗生素の投与にて肺は完治した。  
また 2005 年、右下 6.7 間に植立した人工歯根周囲は写真で示すように  
骨のリモデリングが正常に行われており、組織も正常であった。

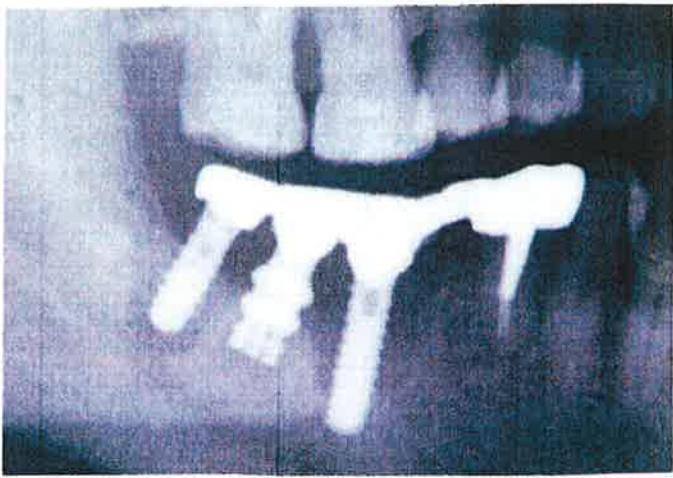
インプラント周囲の骨崩壊組織  
剛対剛のシステムは工学理論に合わない。  
力学刺激による、破壊的リモデリングが起こる。  
骨が、脱灰状になる。  
残った結合組織に重篤の細胞内感染症が起こる。



H17.4.8



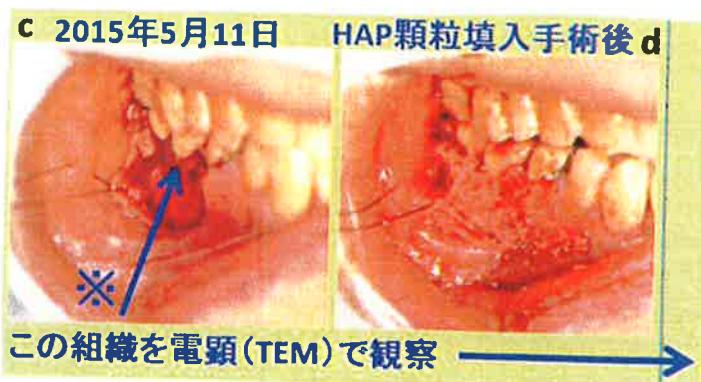
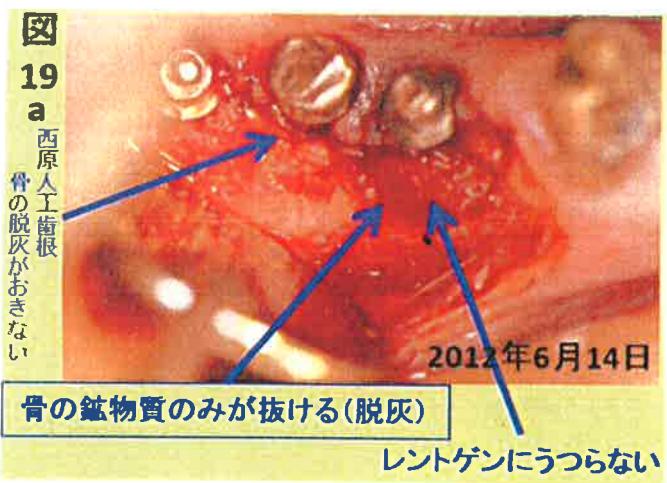
H17.6.7



H27.4.24



H27.5.11



# 肺の非結核性的好酸菌症 64歳

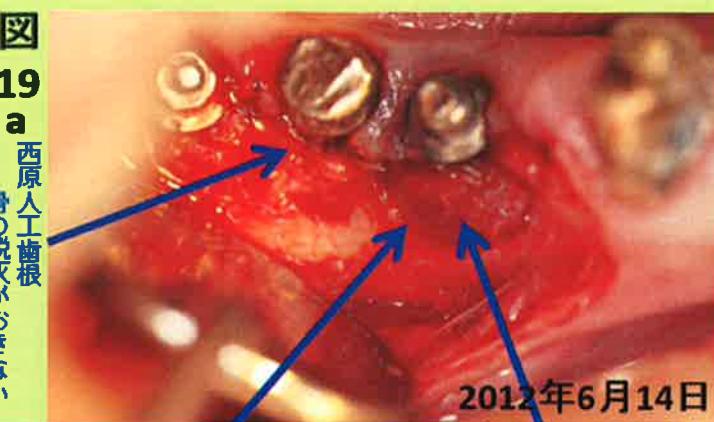
関節なし＝骨癒着  
骨はリモデリングできない

図

19

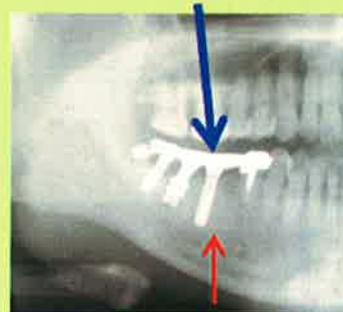
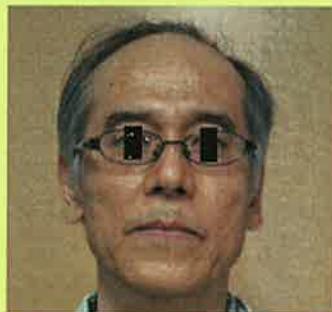
a

西原人工歯根  
骨の脱灰があきない



骨の鉱物質のみが抜ける(脱灰)

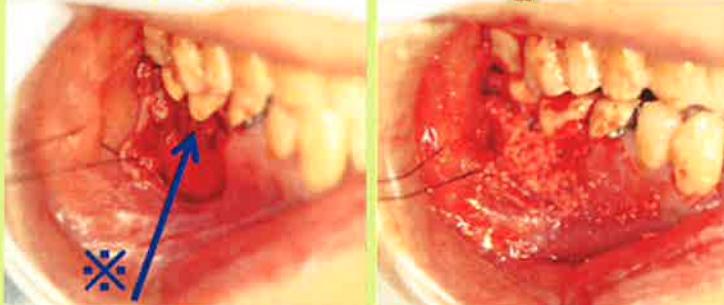
レントゲンにうつらない



2015年4月24日  
肺は左-2 右-1

b

c 2015年5月11日 HAP顆粒填入手術後 d



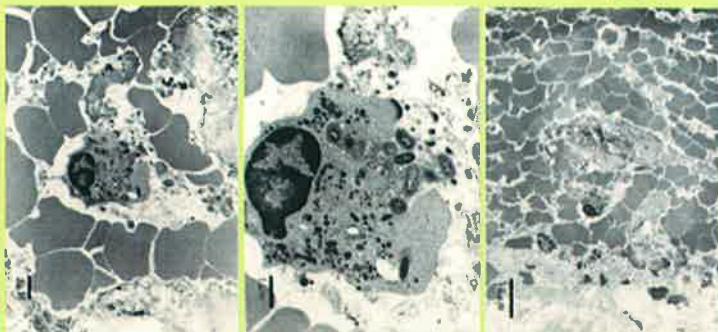
この組織を電顕(TEM)で観察

肺は左右-1 術後+2



e

図20

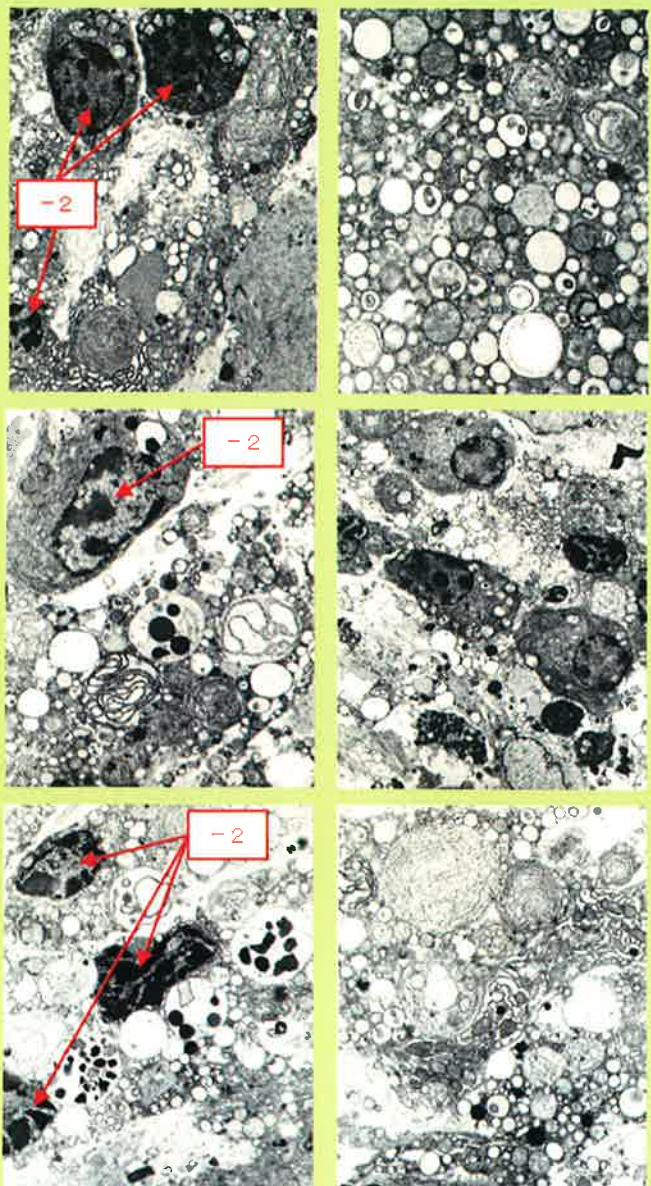


歯根肉芽腫(感染巣)

図20と図21を比べると図21はまるで癌のよう

図21

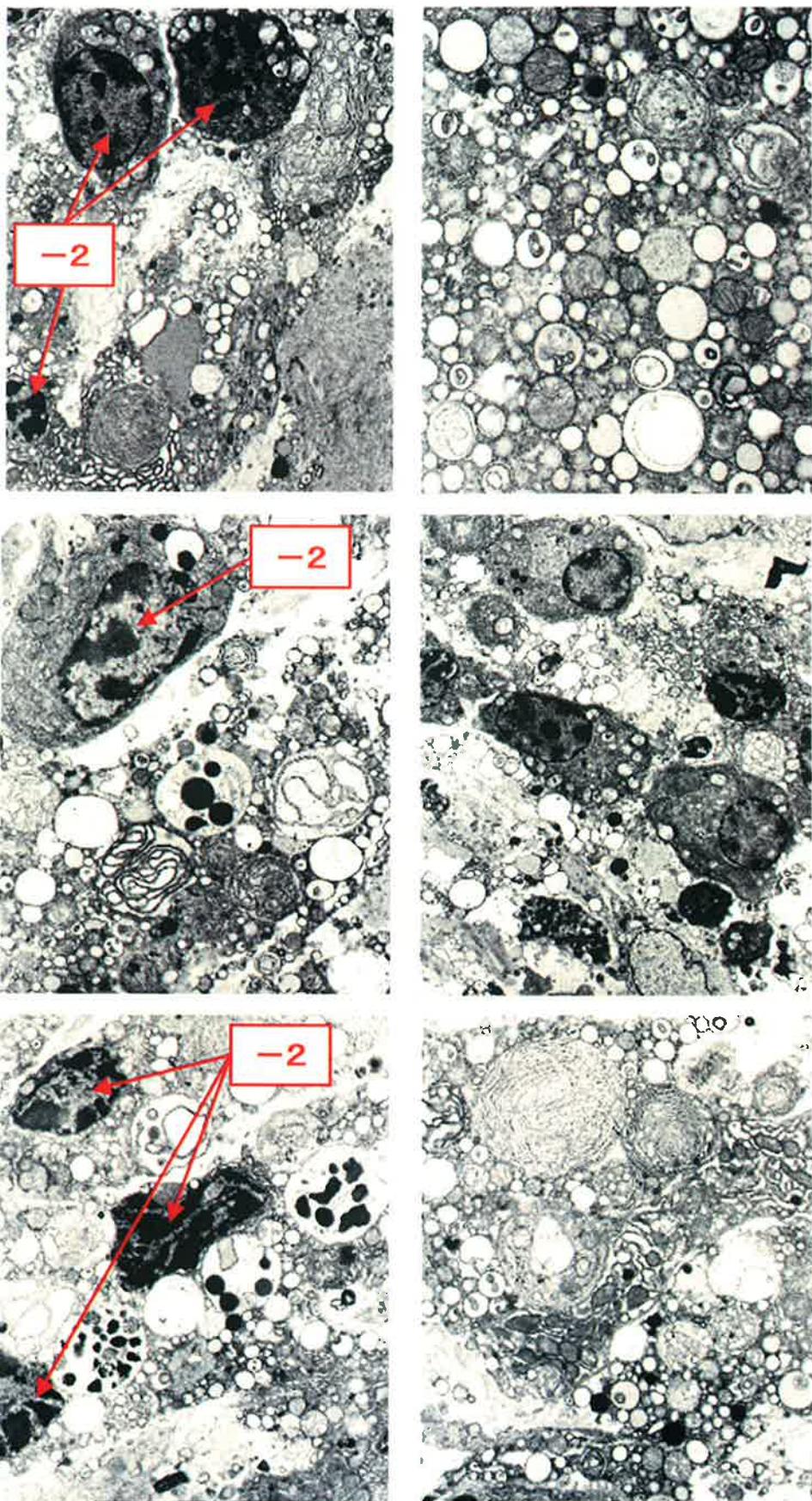
インプラント周囲組織※の電顕像



# インプラント周囲組織の電顕像

細胞内感染症

多重複合腸内微生物の



〈病名〉

# 黒色腫 (細胞内感染症) 1

〈症状〉

皮膚の感染巣 後に生じた黒色腫

(細胞内感染症)

断端が残ると癌のごとく再発する

氏名: K.N.

性別:

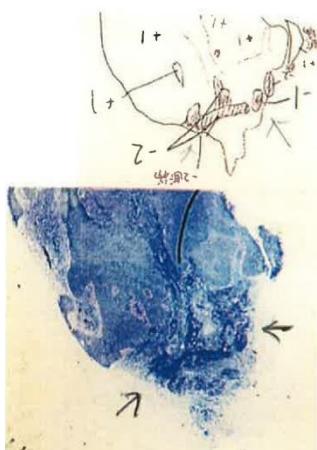
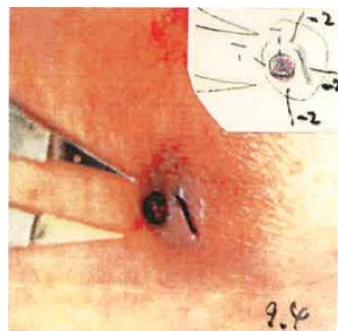
年齢: 才

病院・医師名: 西原研究所

〈AWG 使用前後の経緯〉

H24年

7/27 感染皮膚の黒色斑点摘出術  
光頭標本で断端 (矢印) (+)



8/30 再発

9/4 光頭にて-2あり

10/20 AWG 開始 003、289、324  
黒色斑点部+1



10/22 AWG 158、032

黒色斑点部+2

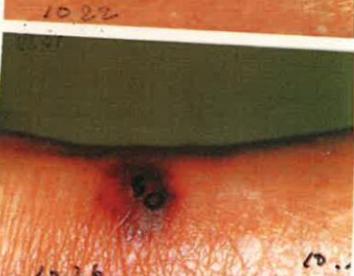
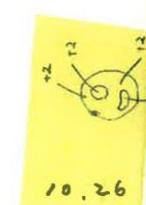
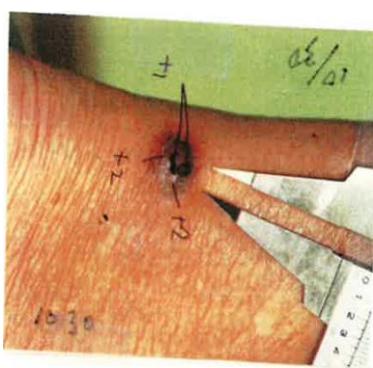
10/25 AWG 294、289

10/26 AWG 289、294

10/29 AWG 289

10/30 AWG 312

AWG 施術後の  
血液光頭像にて  
赤血球の変形あり



〈病名〉

# 黒色腫（細胞内感染症）2

〈症状〉

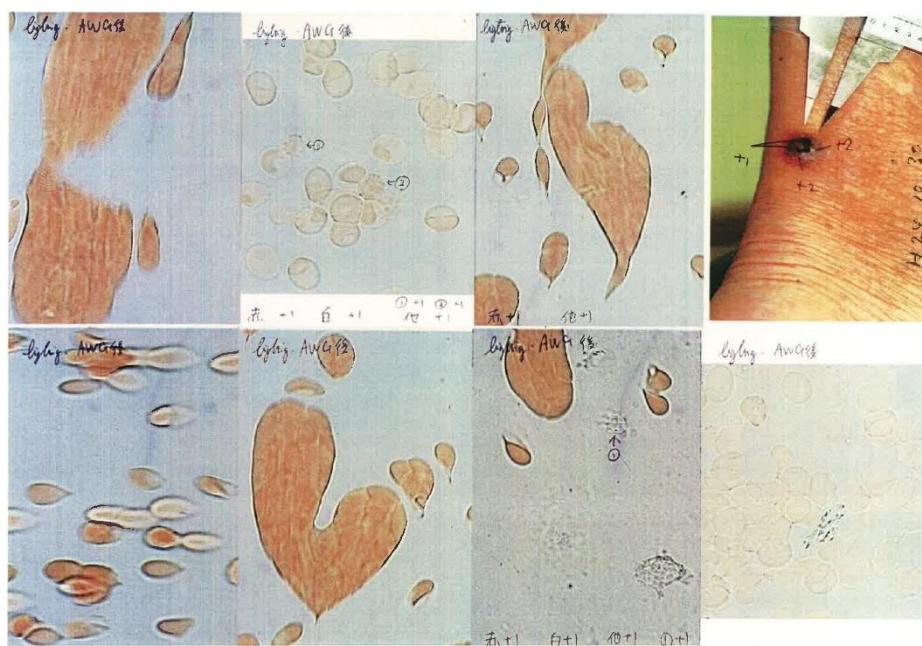
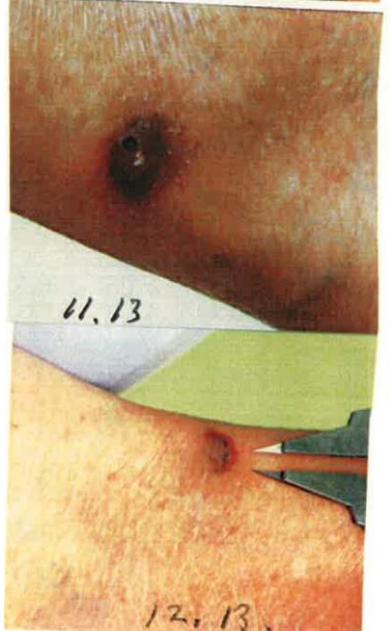
氏名：K.N. 性別：男 年齢：才 病院・医師名：西原研究所

〈AWG 使用前後の経緯〉

11/2 AWG 289  
11/5 AWG 289  
11/8 AWG 293  
黒色斑点部一部+1  
11/13 AWG 293、289  
黒色斑点部がかさぶたとしてとれる  
11/14 AWG 158  
11/19 AWG 289、293  
12/13 AWG 289、293  
完治

AWG 開始時に血液を観察したところ

これまでに経験したことのない血液像が観察された



〈病名〉

# 乳癌 1-1

〈症状〉

H25年5月27日 静岡のガンセンターで、世界で決まっている治療をしようと説明を受けて来院  
BDOTの結果 胸の絵 左が-2あり 抗生剤(ジョサマイシン(2T))の服用  
AWG(コード289.293)の実施 溫熱療法(体を温める)の実施 治療後 BDOTにて左胸+1に変化

氏名: S.Y.	性別: 女	年齢: 69才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	---------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H25年6月24日 胸がたまに痛むとのこと

BDOTの結果

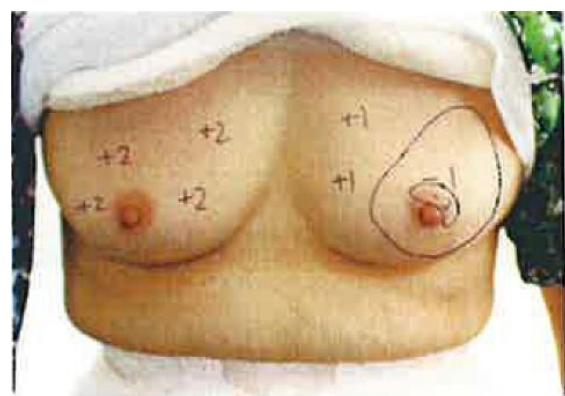
R (+2  
+2  
+2) (+1  
+1  
+1) L  
左胸-2あり

抗生剤(フロモックス(1T))の服用

AWG(コード289.293)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

治療後 BDOTにて左胸+2に変化



H25年7月29日 胸の痛みは減った。しこりが小さくなったとのこと。

BDOTの結果

胸の絵

R (+2  
+2  
+2) (+1  
+1  
+1) L  
左胸が-1あり

抗生剤(フロモックス(1T))の服用

AWG(コード143.262.289.293)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

治療後 BDOTにて左胸+2に変化

〈病名〉

# 乳癌 1-2

〈症状〉

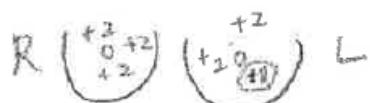
氏名: S.Y.	性別: 女	年齢: 69 才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H25年9月2日 特に問題なしとのこと。著明に縮小

BDOTの結果

胸の絵



左胸が+1あり

抗生素(プロモックス(IT))の服用

AWG(コード 044.289.293)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

治療後 BDOT にて左胸+2に変化

H25年10月1日 胸のしこりは小さくなったとのこと

BDOTの結果+2

抗生素(プロモックス(2T))の服用

AWG(コード 195.289.293)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

〈病名〉

# 乳癌 1-3

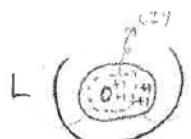
〈症状〉

氏名: S.Y.	性別: 女	年齢: 69 才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H26年7月3日 風邪を引いて喉が痛い 胸のしこりは少し小さくなったとのこと

BDOTの結果



+1の範囲しこりより広い

抗生剤(フロモックス(1T))の服用

AWG(コード 298.293.289)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

治療後 BDOT にて左胸+2 に変化

H26年8月22日 胸のしこり小さくなつたとのこと

BDOTの結果



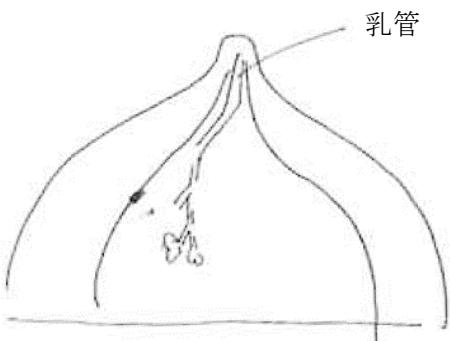
左胸が+1あり

抗生剤(フロモックス(1T))の服用

AWG(コード 289.293)の実施

温熱療法(体を温める)の実施

治療後 BDOT にて左胸+2 に変化



〈病名〉

# 乳癌 1-4

〈症状〉

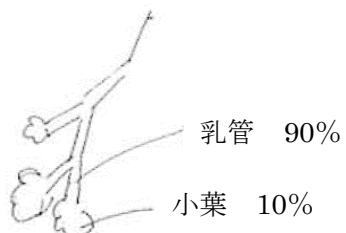
氏名: S.Y.	性別: 女	年齢: 69 才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H26年9月29日 BDOT結果+1

AWG(コード 289.293.044)

治療後 BDOT+2



H26年11月4日 BDOT結果+1

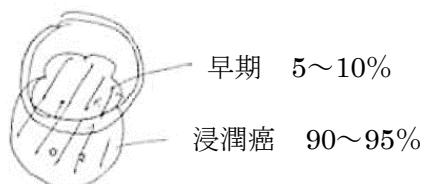
AWG コード(289.293.044)

治療後 BDOT+2

H26年12月1日 BDOT結果+1

AWG コード(298.007.312)

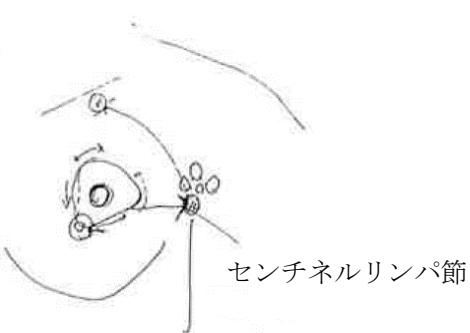
治療後+2



H27年1月6日 BDOT結果+1

AWG(コード 293.289.232.44)

治療後 BDOT+2



H27年2月10日 BDOT結果+1

AWG コード(293.289.44)

H27年2月27日 4-7 義歯装着後 胸+2 正常にいたる。

感想 ぴったりと合った義歯にしたことで、噛めるようになり完治した。

よって AWG の限界がここにある。

〈病名〉

# 右足静脈瘤 1

資料① →  
H24.7.12



〈症状〉 <資料①参照>

H24年7月12日右足に静脈瘤があったため、BDOT実施。→ -2であった。

抗生素(レボフロキサシン、ジョサマイシン)服用。

初診時は鼻呼吸の徹底(美呼吸テープ、トレーナー、ノーズリフト使用)

人工太陽光線療法のみの実施。AWGは実施せず。治療後-2～-1となった。

氏名: O.K.

性別: 男

年齢: 51才

病院・医師名: 西原研究所

〈AWG使用前後の経緯〉

H24年8月17日 右ふくらはぎ-2。

抗生素(レボフロキサシン、ジョサマイシン)服用。

H24年8月27日 右ふくらはぎ-2。

抗生素(レボフロキサシン)服用。人工太陽光線療法実施。

H24年10月1日 右ふくらはぎ-2。

抗生素(レボフロキサシン、ジョサマイシン)服用。

人工太陽光線療法実施。その後のBDOTにて-1。

オルゴン療法実施。その後のBDOTにて+1になった。

H24年11月19日 右ふくらはぎ-1。

<資料②参照> 抗生素(レボフロキサシン)服用。AWG(コード289.293)実施。

↑ 資料② H24.11.19



H24年12月17日 右ふくらはぎ+1。

<資料③参照> 抗生素(ジョサマイシン)服用。

AWG(コード289.293)実施。治療後すべて+2となった。↓ 資料③ H24.12.17

H25年2月12日 右ふくらはぎ+1。

抗生素(レボフロキサシン)服用。

AWG(コード289.293)実施。治療後+2となった。

H25年4月22日 右ふくらはぎ+1

抗生素(フロモックス)服用。

AWG(コード289.293.324.158)実施。

治療後+2となった。

H25年5月20日 右ふくらはぎ+1

AWG(コード289.293)実施。

H25年6月24日 右ふくらはぎ+1

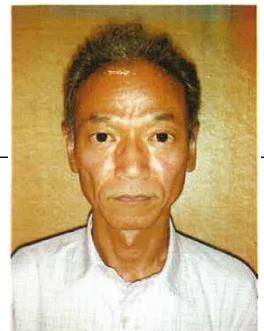
抗生素(フロモックス)服用。

AWG(コード289.293)実施。治療後+2となった。



〈病名〉

## 右足静脈瘤 2



〈症状〉

氏名： O.K.	性別： 男	年齢： 51 才	病院・医師名：西原研究所
----------	-------	----------	--------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H25年8月19日 右ふくらはぎ+1。

抗生剤(フロモックス)服用。

イオン導入実施。AWG 実施せず。

H25年11月25日 右ふくらはぎ+1。

抗生剤(フロモックス)服用。

AWG(コード 305.007.289.293)実施。治療後+2 となった。

H26年1月14日 右ふくらはぎ+2。

H26年7月7日 右ふくらはぎ+1。

抗生剤(ミノマイシン)服用。AWG(コード 312)実施。

H26年11月10日 右ふくらはぎ+1。

抗生剤(ミノマイシン)服用。

AWG(コード 306.262)実施。

温熱療法実施。

治療後+2 となった。

H27年3月20日 右ふくらはぎ+2

<資料④ 参照> 以後再発なし。



資料④ H27.3.20 →

〈病名〉

# 乳ガン 2-1



〈症状〉

H26年

1月 22日 大学病院受診 →乳ガンと診断。

氏名: M.K.	性別: 女	年齢: 63才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	---------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

1月 23日 宮永 Dr.のもとで AWG、温熱療法実施。

<BDOTでは、右乳腺部-4という結果>治療後の BDOT では-2となった。

1月 28日 2月 16日と計3回宮永 Dr.のもとで同様の治療実施。

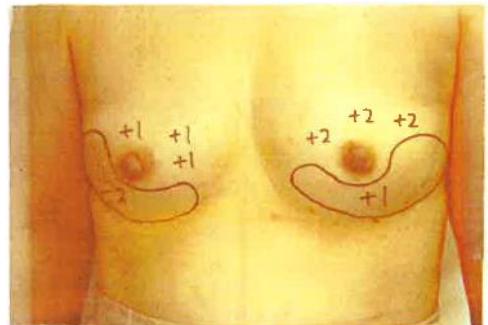
3月 1日 別の病院にて、左乳部に 5mm程度のガンの転移があると指摘あり。

3月 17日 西原研究所受診

抗生剤(フロモックス、ゾビラックス)服用

AWG(コード 305.007.324.175.312.118.158.045)

温熱療法実施。治療後すべて+2となった。



4月 18日 左右乳部来院時+1。

抗生剤(ゾビラックス)服用。

AWG(コード 324.158)温熱療法実施。治療後すべて+2となった。

5月 20日 左右乳部+1。→治療後すべて+2となった。

6月 23日 左右乳部+1(範囲縮小)



抗生剤(ゾビラックス)服用

AWG(コード 044.158.324)温熱療法実施。治療後すべて+2となった。

7月 24日 左右乳部すべて+2。

〈病名〉

# 乳ガン 2-2

〈症状〉

氏名: M.K.	性別: 女	年齢: 63 才	病院・医師名: 西原研究所
----------	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H27年

9月28日 右乳部-1 左乳部+2 R (⊕) +1 +2 L (+) +1 +2

「7月から冷飲料を飲んでいる」とのこと。

抗生素(シプロキサン、ジェンナック、グリチロン)服用。ゾシン点滴。

温熱療法、ホルミーシス(吸入)実施。治療後+2となった。

10月29日 右乳部+1 左乳部+2 R (⊕) +1 +2 L (+) +1 +2

抗生素(シプロキサン)服用。

AWG(コード 158.289.293)温熱療法実施。

治療後+2となった。

11月27日 右乳部+1 左乳部+2 R (⊕) +1 +2 L (+) +1 +2

抗生素(ゾビラックス、レボフロキサン)服用。

AWG(コード 158.175.007)温熱療法実施。治療後+2弱となった。

現在、継続来院中。

〈病名〉

?

〈症状〉

H24年12月4日 リンパ周囲・唾液腺の腫脹、  
舌のしびれを訴えて当院に再来院。

氏名: T.Y.

性別: 女

年齢: 43才

病院・医師名: 西原研究所

〈AWG使用前後の経緯〉

BDOTの結果、右首リンパ腫脹部分、舌下腺出口付近が+1。

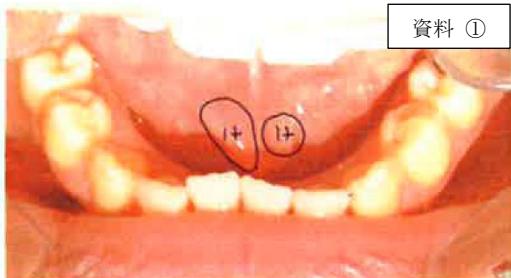
抗生素(レボフロキサシン)服用。

AWG(289.293)温熱療法(体の温め)の実施。

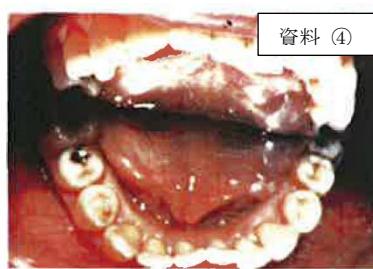
治療後、BDOTにて+2に変化。



〈資料①・② 治療前〉



〈資料③・④ 治療後〉



12月11日 リンパ周囲・唾液腺の腫脹がなくなったとのこと。

BDOTの結果+2

以後再発なし

〈病名〉

## ドライマウス



〈症状〉

耳鼻科にてドライマウスと診断され薬を服用後、口の中に違和感がある状態。

一般歯科・内科へ行くも原因不明との事で症状は改善せず。

H27年6月より唾液が過剰に出る状態となり H27年7月2日来院。

氏名： F.M.

性別： 女

年齢： 76 才

病院・医師名：西原研究所

〈AWG 使用前後の経緯〉

BDOT(オーリングラスト)によりミノマイシンが有効と判明した為  
ノーズリフト・美呼吸テープ・美呼吸トレーナーを使用し鼻呼吸を徹底させる  
と共に AWG(コード 262.117)を実施した。

1回の治療で症状は消失し、その後再発なし。

〈病名〉

## エプーリス 齒根膜の慢性感染巣＝細胞内感染巣

〈症状〉

氏名:	性別: 男	年齢: 60 才	病院・医師名: 西原研究所
-----	-------	----------	---------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H27

3/24 左下歯肉+1

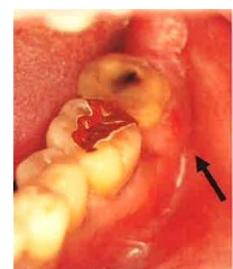
4/6 左下歯肉+1

5/12 左下歯肉部 電顕検体採取(1回目)

左下歯肉部+1(クラリス 200mg 有効)

肉芽腫エプーリス

完全摘出



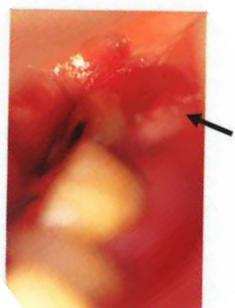
5/22 再発部 左下歯肉部 電顕検体採取(2回目)

6/4 AWG 190・224 開始

6/5 再発部

左下歯肉部+1

毎日 AWG



6/16 左下歯肉部+2

かなり縮小

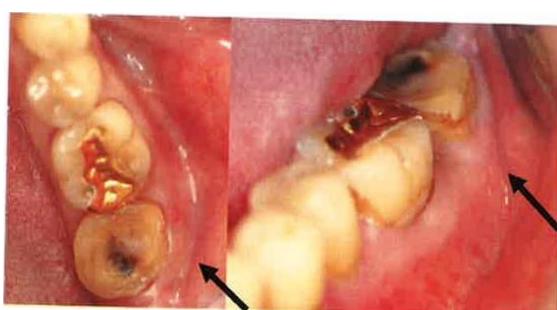
毎日 AWG

7/7 左下歯肉部+2

完治

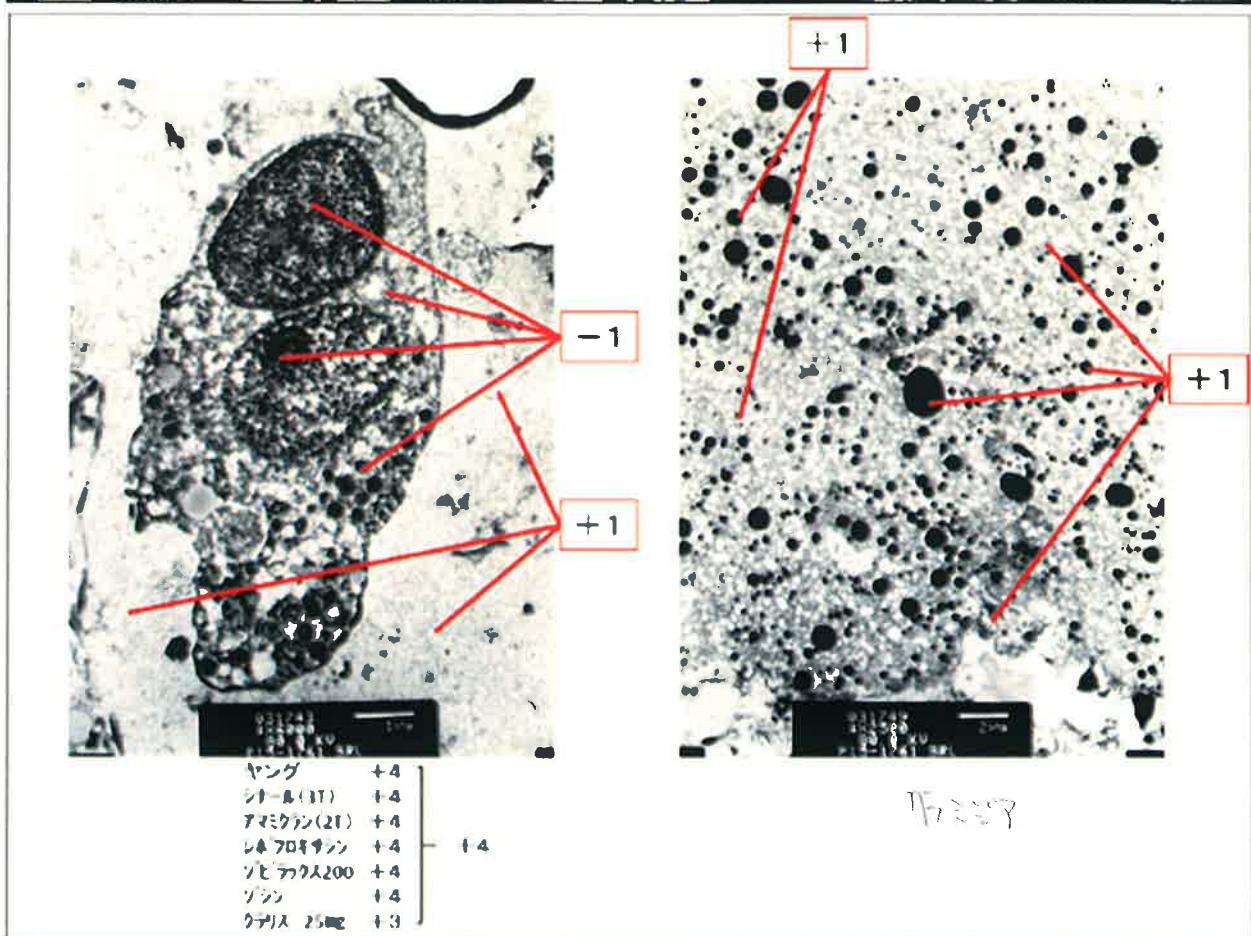
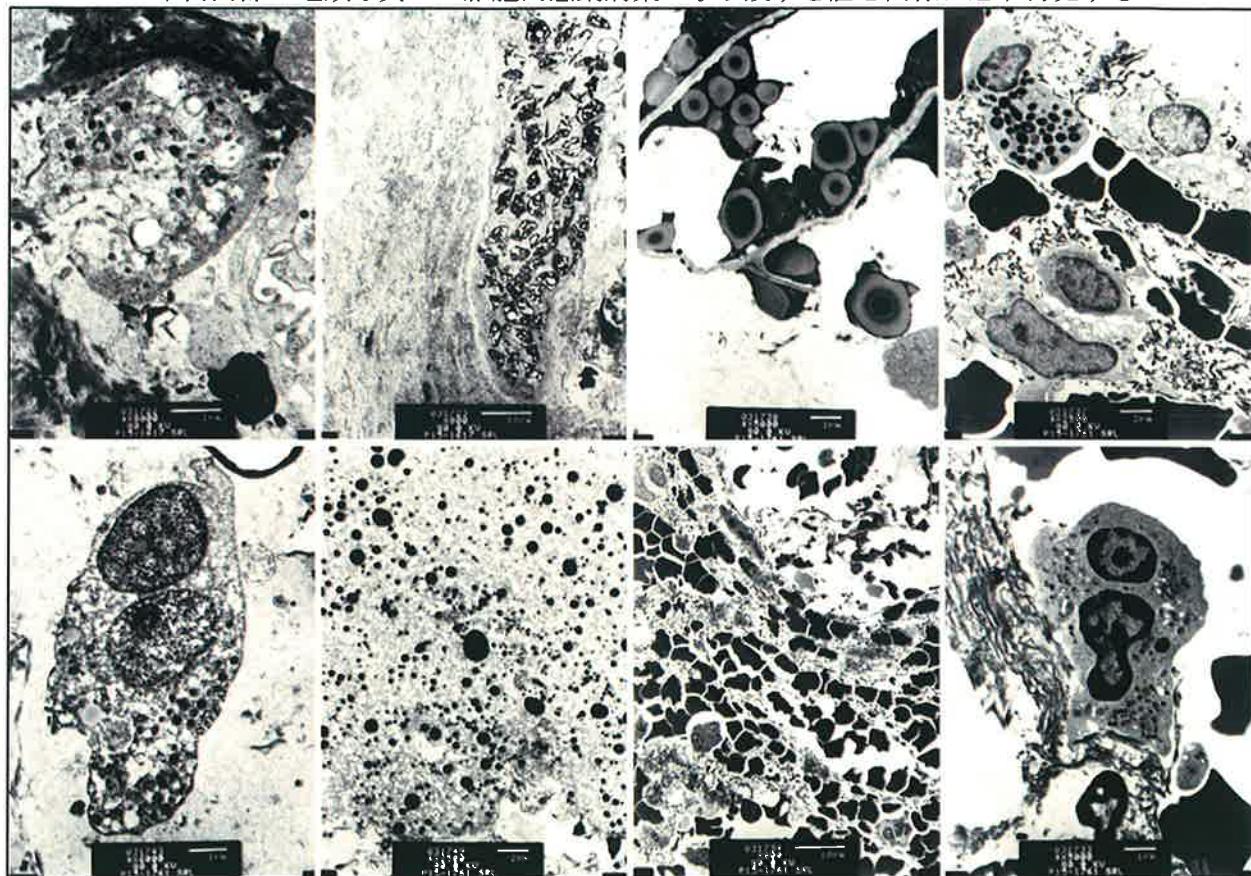
10/13 左下歯肉部+2

再発なし

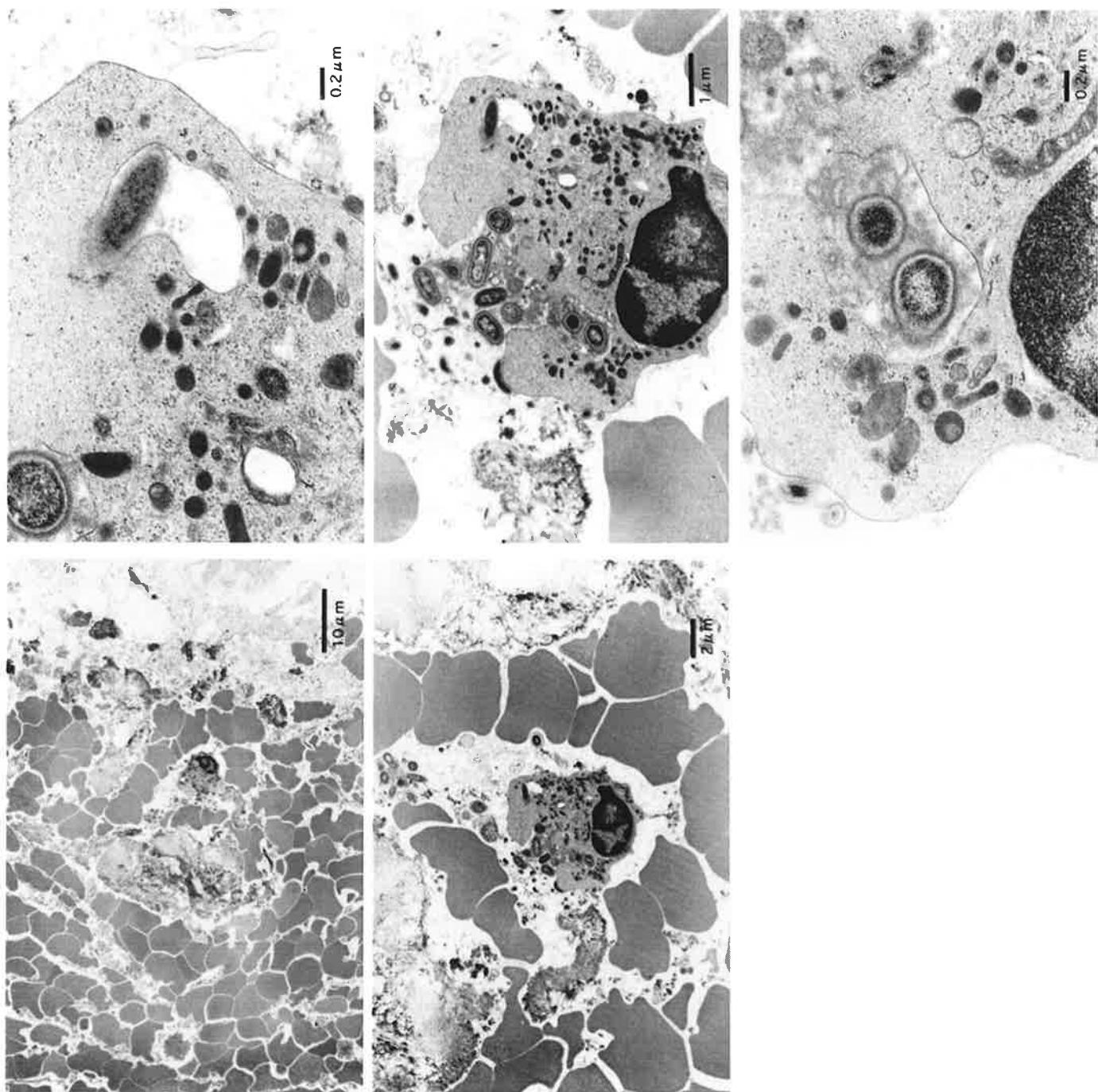


左下歯肉部 電顕写真

細胞内感染病巣 取り残すと癌と同様に必ず再発する



歯根肉芽腫 白血球内の細菌



〈病名〉

# 甲状腺癌 1

〈症状〉

平成24年11月末、会社の健康診断にて再検査通知があり、

平成25年1月29日大分県内にある病院を受診。

頸部エコー検査の結果、甲状腺に多発性の結節を認め悪性の腫瘍、

甲状腺乳頭癌・リンパ節転移・甲状腺嚢胞と診断される。自覚症状は無。

氏名： H.G. 様

性別： 女

年齢： 48才

病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院

〈AWG 使用前後の経緯〉

『乳頭癌』

a . 6×6×6mm (右)

b . 14×13×17mm (左)

『転移性リンパ節』

4×11×15mm (右)

5×7×11mm (左)

別資料1.

兄の勧めで AWG 治療のことを知り、平成25年1月31日

当院受診。初診当日より1回目の治療を行う。

平成25年1月31日初診当日より AWG 治療開始。

AWG 使用後の経過次の通りである。

『AWG 使用後の経過』

1月 1日間 2月 19日間 3月 23日間

4月 25日間 5月 25日間 6月 8日間 (計・101日間)

6月以降は本人の希望により自宅治療の為、AWG をレンタル開始。

2ヶ月に1度当院にて採血検査の為、受診される。

『当院での AWG 治療番号と治療時間・回数』

① 7003 (36) 前癌状態

② 7012 (40) 免疫向上

③ 7058 (6) 全般予防

④ 7140 (48) 甲状腺腫（結節性） ①～④セット治療 1回 130分 2回 260分

⑤

以上の番号を各2～3回、AM9:00～PM2:00の間、連続治療。

または、AM8:30～PM2:00の間、連続治療。

1月 1日間 4回 ※①～④を各1回 2時間10分 (130分)

2月 19日間 152回 ※①～④を各2回 4時間半 (260分)

3月 23日間 184回 ※①～④を各2回 4時間半 (260分)

4月 25日間 200回 ※①～④を各2回 4時間半 (260分)

5月 25日間 200回 ※①～④を各2回 4時間半 (260分)

6月 8日間 64回 ※①～④を各2回 4時間半 (260分)

〈病名〉

## 甲状腺癌 2

〈症状〉

参考：通院期間 平成25年1月31日～平成25年6月23日  
※AWG治療のみ期間

氏名： H.G. 様	性別： 女	年齢： 48才	病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院
------------	-------	---------	-------------------

〈AWG使用前後の経緯〉

合計・101日間 804回

※①～④のAWG治療をした結果は次の通りである。

※平成25年5月30日、当院において採血検査を受ける。

検査内容は以下の通り。

### 『血液検査結果』

検査項目	成績	単位	基準値
C E A	0.8	ng/mL	5.0以下
T S H	2.06	μl u/mL	0.50～5.00
F T 3	2.91	pg/mL	2.30～4.00
F T 4	0.95	ng/dL	0.90～1.70

93日間 740回 ※①～④のAWG治療をした結果、  
基準値（正常値）に戻る。最良の結果があらわれた。

平成25年6月1日からは予防のためにAWG治療に通う。

6月8日間通ったのち、AWG自宅治療を開始。

※平成25年8月17日熊本県内クリニックにおいて

血液検査、甲状腺ホルモン検査を行う。検査結果は以下の通り。

### 『血液検査結果』

血液検査	血球数	単位	正常値（女性）
白 血 球	3700	/μL	3500～9100
赤 血 球	454万	/μL	376～500万
血 色 素	13.2	g/dL	11.3～15.2
血 小 板	18.3万	/μL	13.0～36.9万
F T 3	2.58	pg/mL	
F T 4	0.89	ng/dL	
T S H	2.140	μl u/mL	

検査の結果すべて正常値に戻ったことが証明された。

AWG治療効果の成果である。

# 頸部超音波報告書

患者ID					
患者名					生年月日 1967/05/08
漢字患者名					性別 女
検査日	2013/01/29 11:31:21	依頼医		入外区分	外来
検査者		確定医		細胞診施行医師	

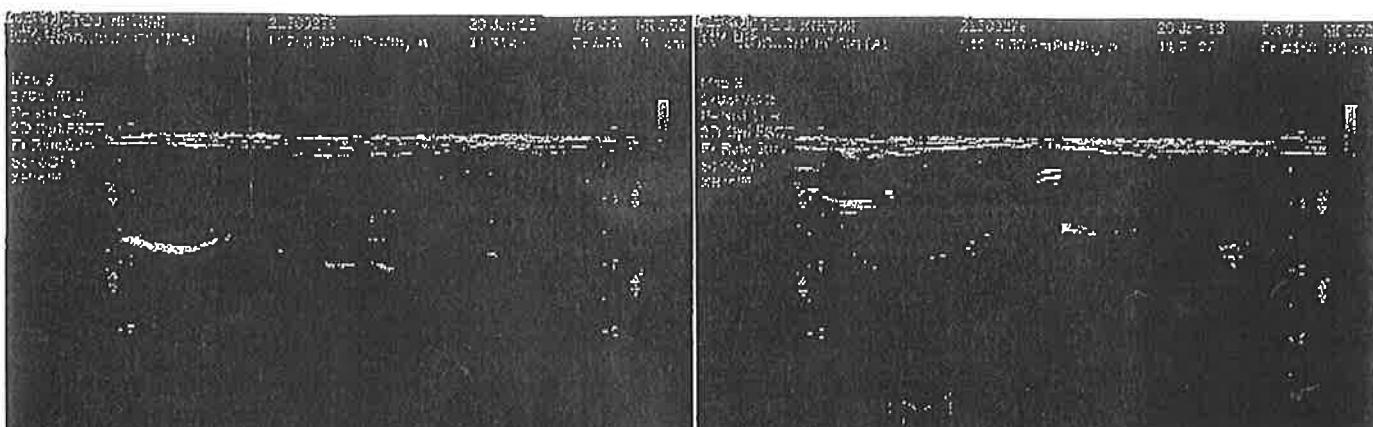
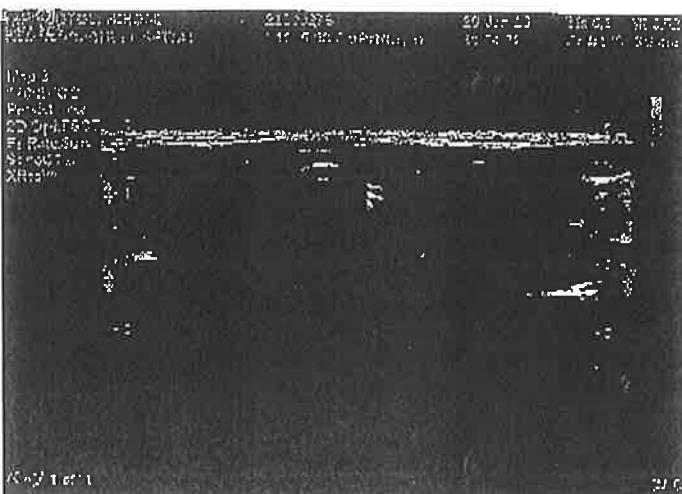
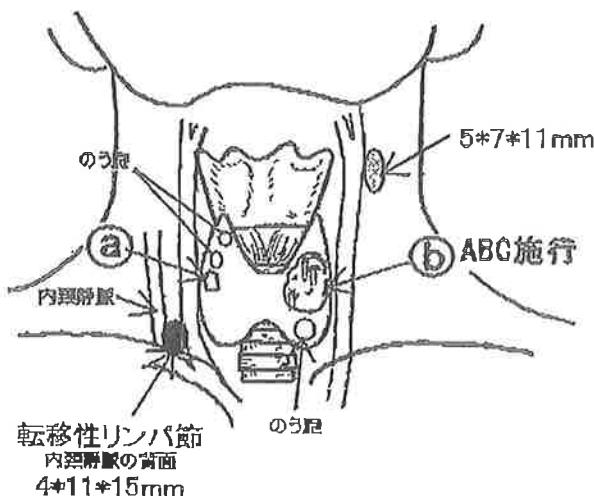
結節性病変 (mm)						推定病変	鑑別すべき病変
a 右	6	×	6	×	6	乳頭癌	
b 左	14	×	13	×	17	乳頭癌	

転移性リンパ節	あり	リンパ節内部性状：充実性
副甲状腺腫大	なし	

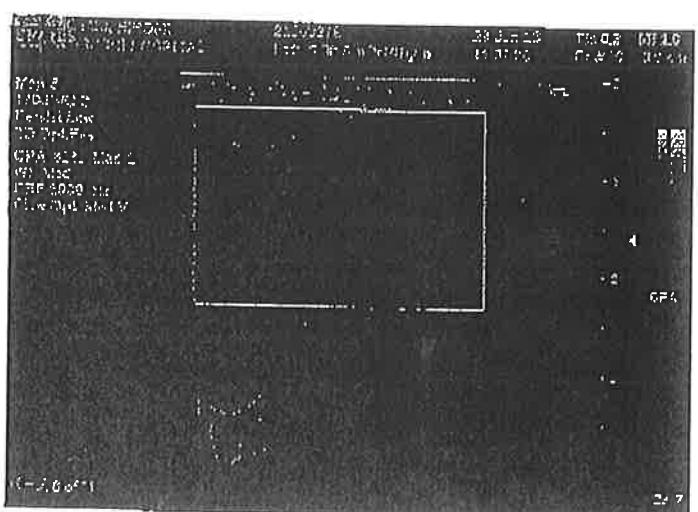
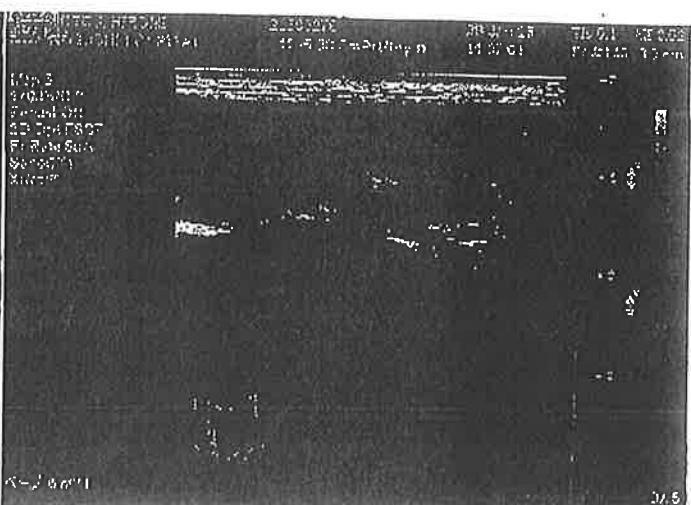
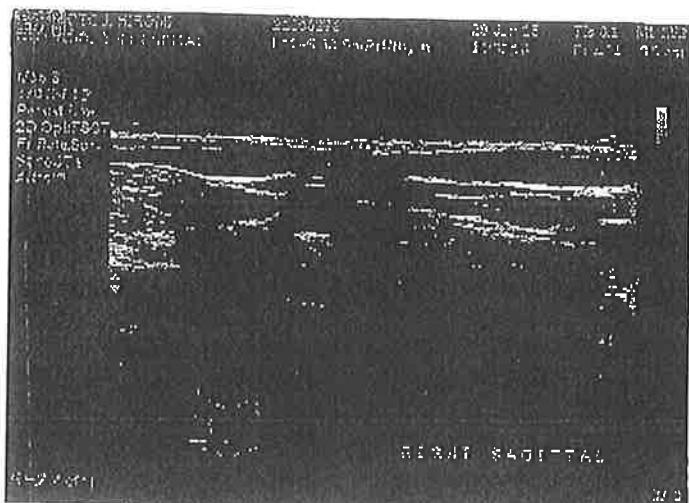
## 超音波所見にもとづく推定病変

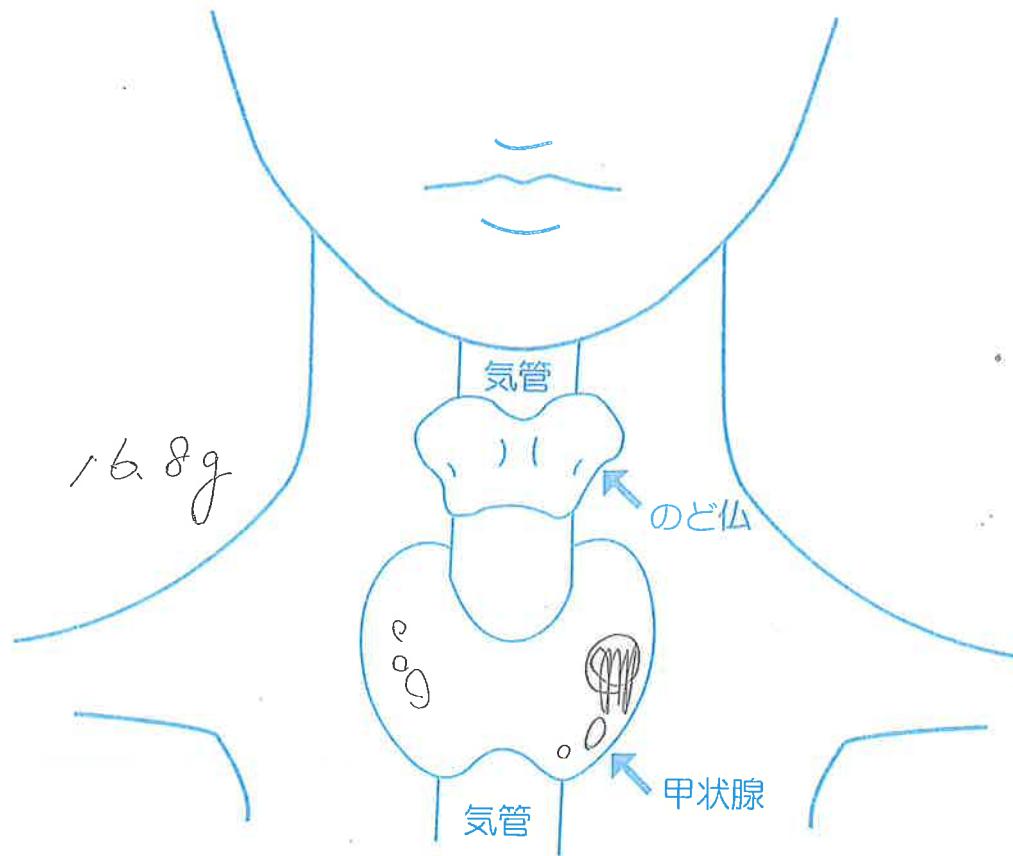
乳頭癌	甲状腺囊胞	リンパ節転移
-----	-------	--------

所見	<p>a. は形状不整、境界不明瞭、内部等エコーで点状高エコーを伴っています。</p> <p>b. は周囲、内部に石灰化を伴う形状不整、境界不明瞭、等エコーの結節です。</p> <p>a, b. ともに乳頭癌を考えます。</p> <p>一部充実性にみえる転移性リンパ節も認めます。</p>
----	--









バセドウ病

慢性甲状腺炎

結節性甲状腺腫

腺腫様甲状腺腫

甲状腺全体の重量

女性 6.6~11.8g

男性 9.5~15.3g



TAJIRI CLINIC

田尻クリニック

甲状腺外来

# 血液生化学検査結果

13 年 08 月 17 日



田尻クリニック  
甲状腺外来

〒862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺2丁目6  
Tel 096-385-5430 Fax 096-385-3488

様

	測定値		正常値	
総蛋白	7.6 g/dl		6.0-8.3	血清蛋白の検査
アルブミン	4.9 g/dl		3.5-5.3	
血糖	98 mg/dl		65-110	糖尿病の検査 [食後30分]
総コレステロール	172 mg/dl		130-240	
HDLコレステロール(善玉)	mg/dl			脂質の検査
LDLコレステロール(悪玉)	98.8 mg/dl		139以下	
中性脂肪	28 mg/dl	L	35-149 <i>心配ありません</i>	
尿酸	4.4 mg/dl		2.6-7.2	痛風の検査
クレアチニン	0.56 mg/dl		0.30-0.95	腎機能の検査
eGFR	90.1 mL/min/1.73m <sup>2</sup>		≥60	
総ビリルビン	mg/dl			
直接ビリルビン	mg/dl			
AST(GOT)	21 IU/l		9-48	肝機能の検査
ALT(GPT)	13 IU/l		5-49	
γ-GTP	IU/l			
ALP	90 IU/l	L	115-359 <i>心配ありません</i>	肝機能及び骨から出る酵素
CPK	79 IU/l		26-174	筋肉から出る酵素
カルシウム	9.9 mg/dl		8.6-10.1	
リン	3.9 mg/dl		2.7-4.5	電解質の検査
ナトリウム	138 mEq/l		135-150	
カリウム	4.3 mEq/l		3.5-5.3	
鉄	ug/dl			貧血の検査

Comment:

〈病名〉

# 脳腫瘍・神経膠腫（グリオーマ） 1

〈症状〉

手足や顔の動きが麻痺したりやバランス障害（ふらつき）

氏名： Y.F. 様	性別： 女	年齢： 4才	病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院
------------	-------	--------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

参考：通院期間 平成 26 年 10 月 25 日～平成 27 年 4 月 7 日  
※AWG 治療のみ期間

## 『AWG 使用前後の経緯』

平成 26 年 8 月 16 日、実家で遊んでいる時に、いつもより転倒回数が多く、また、目の焦点が定まらず唾液を垂らした状態に気が付き、様子がおかしいと、福岡県柳川市にある高木病院を受診。同日、詳しく調べる為に久留米大学病院脳外科に移動、緊急入院。平成 26 年 8 月 16 日から平成 26 年 10 月 25 日まで入院。初診当日に余命 3 ヶ月を宣告される。その間、抗がん剤治療を開始するが効果がみられないとのことで退院。その日のうちに当院の AWG 治療の説明を聞き治療開始。2 日目から効果があらわれる。前日に来院した時はふらつきが酷く、唾液を垂らした状態だった。しかし、1 日目に①～⑥のセット+a（免疫）を治療した結果、自立歩行、顔面麻痺が緩和される。余命宣告されてからというものどのような治療をおこなうべきか？と悩む人が多い中、AWG 治療を身近で受けられる者としては幸運でまた、2 日目早朝から効果が目の当たりでき、3 歳の少女でさえ自覚できる喜びに「毎日、AWG 治療にければ幼稚園行けるよね？」と希望を持ち続け平成 26 年 10 月 25 日～平成 27 年 4 月 7 日の間、毎日のように 2 時間半、嫌がらずに AWG 治療を受けた結果は以下の通りである。

## 『当院での AWG 治療番号と治療時間・回数』

- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| ① 7003 (36) 前癌症状  | a. 7012 (40) 免疫向上        |
| ② 7057 (18) 癌     | b. 7058 (6) 癌全般予防        |
| ③ 7059 (9) 癌      | c. 7064 (12) 癌腫          |
| ④ 7069 (24) 脳脊髄全般 | d. 7072 (36) 水頭症         |
| ⑤ 7115 (45) 癌性疾患  | e. 7251 (9) 血漿・リンパ漿      |
| ⑥ 7318 (24) 腫瘍全般  | f. 7324 (36) ウィルス性疾患     |
| セット治療             | ①～⑥ 1回 156 分 (2 時間 36 分) |
| a～f               | 1回 139 分 (2 時間 19 分)     |

〈病名〉

## 脳腫瘍・神経膠腫（グリオーマ） 2

〈症状〉

手足や顔の動きが麻痺したりやバランス障害（ふらつき）

氏名： Y.F. 様	性別： 女	年齢： 4 才	病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院
------------	-------	---------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

以上の番号を各 1 回、PM 1 : 30 ~ PM 4 : 00 の間、連続治療。

または、AM 10 : 30 ~ PM 1 : 00 の間、連続治療。

1ヶ月の治療日数・AWG 使用回数

※①～⑥セット各回数・a～f セット各回数・治療時間

平成 26 年

10月	5日間	5回	※①～⑥を各1回	2時間19分（156分）
11月	30日間	30回	※①～⑥を各1回	2時間19分（156分）
12月	28日間	28回	※①～⑥を各1回	2時間19分（156分）

平成 27 年

1月	26日間	26回	※a～f を各1回	2時間19分（139分）
2月	29日間	29回	※a～f を各1回	2時間19分（139分）
3月	31日間	62回	※a～f を各1回 ※①～⑥を各1回	2時間19分（139分） 2時間19分（156分）
4月	6日間	36回	※a～f を各1回 ※①～⑥を各1回	2時間19分（139分） 2時間19分（156分）

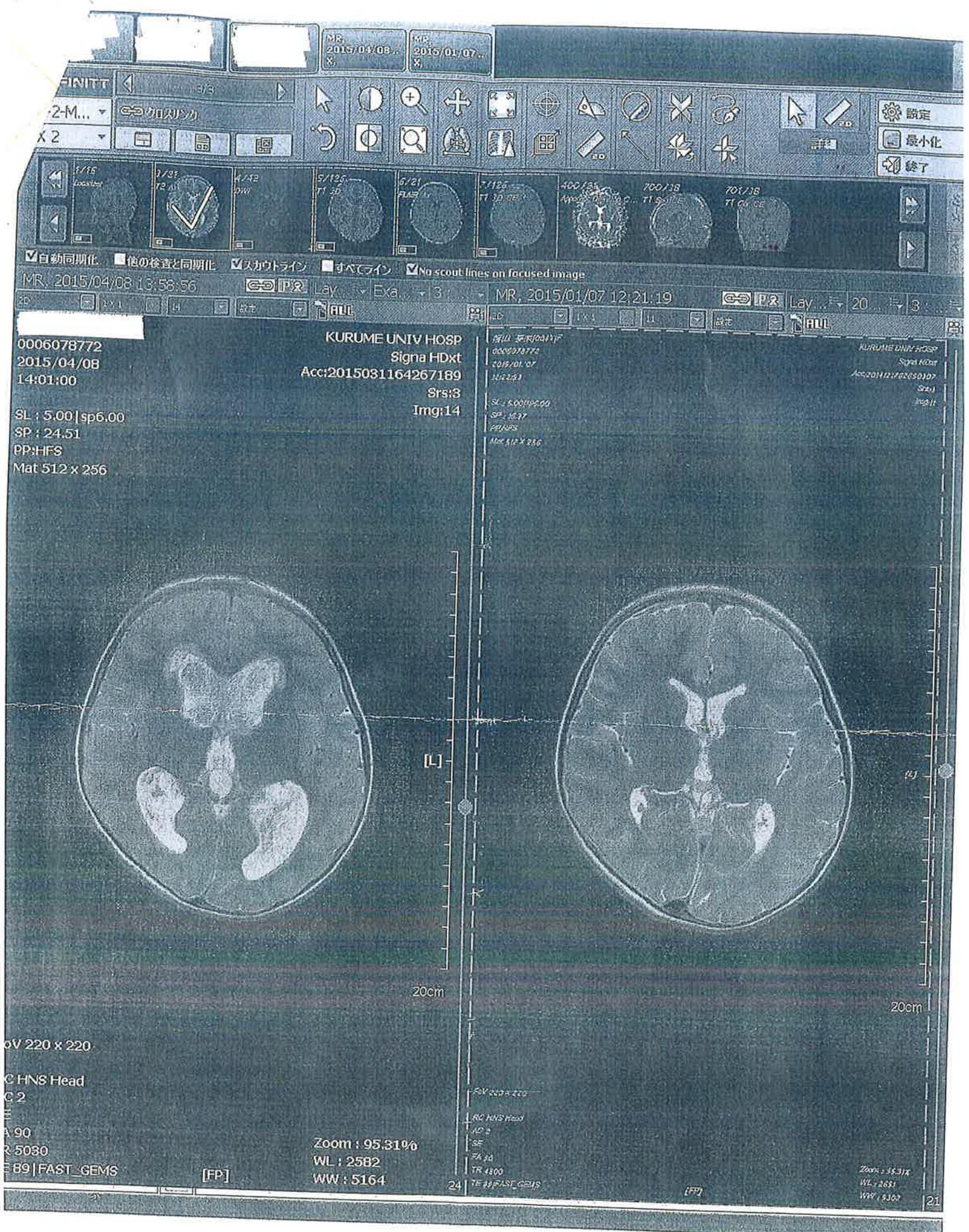
合計 155 日間 216 回

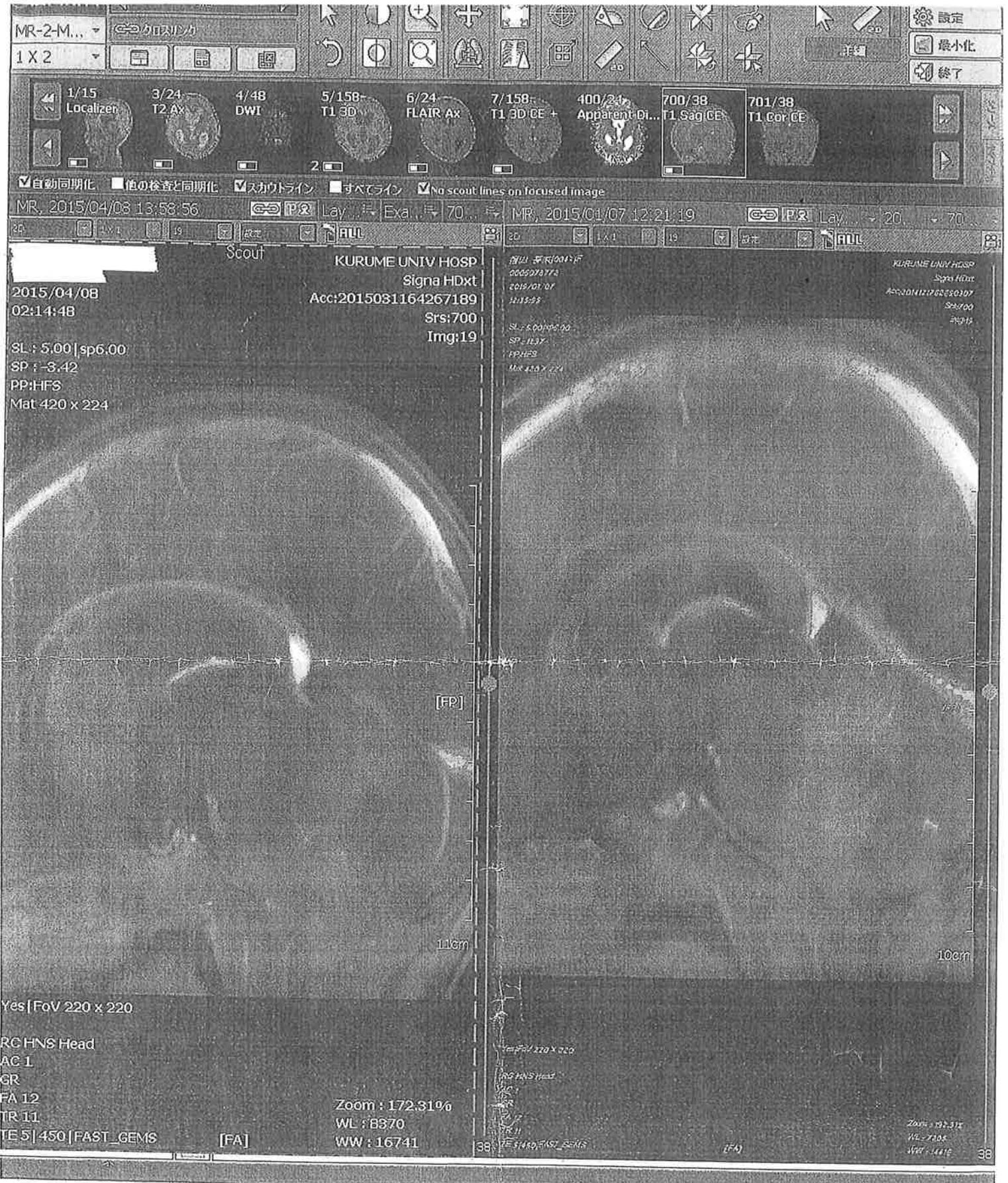
155 日間 216 回の AWG 治療の結果、腫瘍が 1/4 に縮小されていることが MRI 検査の結果わかる。

ご両親が AWG 治療に好意的で意欲があった為、患者本人も嫌がらず、長時間の治療に専念した結果です。

他の治療法が無いと落胆していましたが、AWG のお陰で希望が持てた。

感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





〈病名〉

# 前立腺癌

〈症状〉

平成24年2月7日前立腺癌と某病院で告げられる。再検査の為、福岡県内にある九大病院へ。手術を勧められていたが自分自身、手術をすることが良いとは思えず知人によりAWG治療を勧められ平成25年6月13日当院を受診。

氏名： H.A.	性別： 男	年齢： 66才	病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院
----------	-------	---------	-------------------

〈AWG使用前後の経緯〉

初診時からAWG治療開始。治療番号は次の通りである。

《当院でのAWG治療番号と治療時間・回数》

- ① 免疫 7012 (39)
- ② 下肢疾患 7101 (21)
- ③ 前立腺 7257 (21)
- ④ 癌性疾患 7115 (45)
- ⑤ 癌全般 7058 (6)

※①～⑤ セット治療 1回 132分 (2時間12分)

《AWG使用後の経過》

平成25年

6月	6日間	30回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
7月	9日間	45回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
8月	10日間	50回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
9月	8日間	40回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
10月	9日間	45回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
11月	8日間	40回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
12月	5日間	25回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
合計・55日間		275回			

平成26年

1月	4日間	20回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
2月	5日間	25回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
3月	1日間	5回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)

〈病名〉

## 前立腺癌

〈症状〉

平成24年2月7日前立腺癌と某病院で告げられる。再検査の為、福岡県内にある九大病院へ。手術を勧められていたが自分自身、手術をすることが良いとは思えず知人によりAWG治療を勧められ平成25年6月13日当院を受診。

氏名： H.A.	性別： 男	年齢： 66才	病院・医師名： 田尻外科胃腸科医院
----------	-------	---------	-------------------

〈AWG使用前後の経緯〉

5月	1日間	5回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
6月	4日間	20回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
7月	2日間	10回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
8月	2日間	10回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
9月	2日間	10回	※①～④を各2回	4時間半	(260分)
合計・21日間			105回		

※①～④のAWG治療をした結果は次の通りである。

日付	前立腺特異抗原P S A値
H25/6/10	13.099p
H25/9/5	10.425p
H25/12/5	11.313p
H26/3/7	16.414p
H26/5/23	3.920p
H26/9/11	3.223p

検査の結果正常値に戻ったことが証明された。

以上の結果をみてもAWGの効果がわかる。

本人曰く、AWG治療を信じ結果が出たことに驚きを隠せない。

他の治療は全く受けずしてAWG治療だけの効果は感謝しても感謝しきれないほどのありがたい治療法である。

これからも治療法で悩める人たちには勧めていきたいと思う。

なぜならば、結果が全てです。

不安な日々から充実した毎日を過ごせることに感謝。

### T - P S A 検査結果照会



〈病名〉

## 発達障害・身体成長障害

〈症状〉

氏名： E.T	性別： 男	年齢： 4 才	病院・医師名：ぴよんぴよん P
---------	-------	---------	-----------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

平成 28 年 9 月来店

成長ホルモン注射治療

平成 28 年 11 月 3 日より AWG 治験開始

基本コード 0003,0012,0324,0058,0056,0171

頭コード 0069,0180,0318

腸コード 0152,0023,0204,0251,0285,0199,035,0240,0190,0298,0023

寄生虫コード 0010,0241,0249

自ら進んで治療を受ける

基本は必ず毎日

他は交代で治療

11月末

風邪を全く引かなくなった

身長 0.7cm 増

12月末

鼻づまりがひどく、嘔吐した日があるが、翌日すっかり回復

身長 0.8cm 増

平成 29 年 1 月末

やや治療を嫌がるようになる

頭コードを身体からかける

かゆみがひどく、足裏が多くなる

身長 0.6cm 増

〈 AWG 使用前後の経緯 〉

2月～3月は本人が嫌がるため就寝時のみ治療

2月 身長 0.5cm 増

3月 身長 0.4cm 増

4月末

体力の増進が著しく感じられる

一冬風邪をひかない事は初めてのこと

身長 0.6cm 増

5月末

運動会で、前年はほとんど走れずに棄権だったのが、2位になり周囲も驚く

身長 0.5cm 増

5月 AWG 返却

祖母談

成長ホルモン治療を一切行わず、身長が半年で4センチ以上増え大変喜んでいます。

それに伴い読み書き、言葉も向上して保育園の先生も驚いています。

3ヶ月を過ぎた辺りから治療を嫌がるようになりました。

痒みに耐えられなくなったようです。

子供が使っていない間、私たち(両親、祖父母)も使用致しました。

胃の痛みや、肝臓の数値、糖尿の数値なども改善され、おかげで疲れが全然違います。

〈病名〉

## パーキンソン病・糖尿病

〈症状〉

氏名： H.O	性別： 男	年齢： 78 才	病院・医師名： ぴよんぴよん P
---------	-------	----------	------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

平成 28 年 6 月 来店

介助無しでの歩行、着替え不可、言語もやや不明瞭

月 2 回の AWG 治療を行う

平成 28 年 10 月 AWG 治験開始

基本コード 0003,0012,0324,0058,0056,0318,0009

頭コード 0069,0305,0318,0239,0023,0025,0295,0030

糖尿コード 0240,0095,0115,0289,0293

局所コード 0152,0023,0204,0251,0285,0199,0135,0289,0293,0115

寄生虫コード 0010,0241,0249

10月末

足のむくみが改善

身体が軽い感じ、気分が楽と本人談

11月末

ズボンを立ったまま履けるようになる

手の震せんが改善

12月末

小康状態が続いたため、白木先生と相談し、薬の一部を中止

平成 29 年 1 月末

片足立ちが 1 分 40 秒できるようになり本人の自覚も高まってきた  
(以前は右 10 秒、左 18 秒)

デイサービスの前の小川(80cm)を飛び越え、施設の方等が驚かれる

〈 AWG 使用前後の経緯 〉

2月末

再び小康状態

パーキンソンコードばかりをかけているため、コードを説明して元に戻す

3月末

再び身体の動きがよくなり、外出も増えてきた

地元の選挙応援に、頻繁に出るようになった

4月末

AWG 治験終了

お嬢様談

お蔭様で着替え、入浴、トイレ等はほとんど介助無しで行えるようになりました。

ただ、薬をやめようとせず、もう少しと思いながらもどかしい気持ちです。

週に2回ほど友人方とお酒を飲みに行けるようになり、表情も明るく楽しそうです。

〈病名〉

## ブドウ膜炎、腫瘍、皮膚・臓器炎症

〈症状〉

- 両目ブドウ膜炎（視野の90%無）・腎炎（多腫瘍性）・皮膚炎（痒み）
- 肺腫瘍・胃炎（食事不可）・腸炎・排尿障害（排尿無）・両足浮腫・子宮、卵巣腫瘍
- 右腕小児がん治療（7歳）

氏名： N.K.	性別： 女	年齢： 45才	病院・医師名： ぴよんぴよん P.
----------	-------	---------	-------------------

〈AWG使用前後の経緯〉

H29年9月1日来店 オライオン検査 AWG治療開始

オライオン検査の結果、サルコイドーシスの疑いが出る。  
本人の病歴、病状等話し合い確信。（白木先生）

基本コード 0003,0012,0324,0058,0056,0318

皮膚コード 0109,0161,0116,0062

肺コード 0253,0317,0318

局所コード 0152,0137,0104,0184,0182,0318,0204,0251,0115,0285,0199,0135,0023,0016

腎臓コード 0190,0298,0023,0318,0246,0301,0115

頭コード 0069,0305,0318,0225,0230,0311,0023

目コード 0120,0115,0023,0139,0315,0225,0141,0218,0233,0311

菌コード 0289,0293,0032,0062

週4~5日、7時間AWG2台にて14時間、可能な限り治療を行っている。

目、ブドウ膜炎により、視野を90%失っていたが、現在ほぼ全快。

右目が白黒の状態も全快。

排尿障害も全快。現在は通常通りの排尿。両足浮腫も全快した。

皮膚、AWG治療時は良いが、夜間の痒みは取れていない。

子宮、卵巣の腫瘍はほぼ全快。

胃・腸は、食欲はやや戻ったが、固形物の摂取までは至っていない。

約2ヶ月の治療で顔色が劇的に良くなり（以前は職場の方や、家族から死人のようだ、と言われていた）、体重も今までで最高になった。

皮膚の痒みが一番辛く、眠れない日が多い。

全体的に改善が著しくみられ、本人が一番実感している。

今後も予断は許せずAWG治療を続けていく。

〈病名〉

## 狭心症・全身性エリテマトーデス

〈症状〉

子供の頃から疲れやすく、運動が苦手で、風邪をひきやすく寝込むことが多く、学校も欠席が多かった。胃腸も弱く、食欲も無く痩せて虚弱化していく。結婚後、益々倦怠感がひどく狭心症と診断される。神経内科にて、精神安定剤、抗うつ剤、睡眠導入剤を処方される。治療を受けながらも倦怠感は取れず、東京から夫婦で両親が住む福岡へ移住。ここ3年ほどほとんど寝たきりの状態だった。

氏名： Y.T.	性別： 女	年齢： 44才	病院・医師名： ぴょんぴょん P.
----------	-------	---------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

H29年2月来店

全身性エリテマトーデスの疑いが強く AWG 治療を開始。

基本コード 0003,0012,0324,0058,0056,0009  
心臓コード 0152,0023,0221,0039,0015  
胃腸コード 0137,0067,0021,0104,0184,0182  
頭コード 0069,0305,0316,0318,0225,0230,0023  
腎臓コード 0190,0298,0039,0015,0025,0115  
身体コード 0204,0251,0285,0199,0135,0240  
菌コード 0289,0293,0032,0062  
就寝時は必ず 0056,0009 を繰り返しかけた。

2日目の朝、驚くほど体が軽く感じた。

3日目、38度の熱が出るが、食欲がある。

7日目、食欲が出て、家事も徐々にできるようになる。

1カ月後、パットの痒みがひどく、就寝時は足裏に貼るようになった。

2カ月後、相変わらずパットの痒みはあるが、外出も頻繁にできるようになり、買い物も行くようになった。

3カ月後、10年ぶりに家族で小旅行に行く。

現在 顔色もよく、声も大きく、体重も5キロほど増えた。  
家事も毎日全てを行い、家中が明るくなった。

本人談 今までの人生で一番元気に生活しています。  
主人は会社を辞めて、自分について来てくれました。  
資格を取って働く準備をしています。

〈病名〉

## 胆囊癌

〈症状〉

2013.12.2 黄疸症状の為、T 病院に受診。結果、胆囊癌と診断される。

2014.5 胆囊、脾臓、十二指腸、胃の一部切除。その後、放射線治療 23 回。抗がん剤治療 2 回。

2015.11 腸閉塞の為入院。肝臓、肺に転移が発覚。その後あらゆる民間療法を行う。

氏名： Y.M.	性別： 女	年齢： 68 才	病院・医師名： ぴよんぴよん P.
----------	-------	----------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

・腸の痛みは、AWG 使用時は大幅に軽減するが、帰って夜痛みがある。

肝臓、肺の癌細胞は変化無し。

その後レンタル開始して自宅療法。

・局所コードに加え、痛みのコード等を行っている。

痛みを緩和できるのが最大の魅力であり、現在も癌と共に戦っている。

談話

・AWG をかけている時は痛みを覚えることはほとんどなく、穏やかです。

体力、筋力が落ちているので少し運動すると筋肉痛がおきてしまいますが、

筋肉コード、疲労回復コードをかけると楽になり、体力の回復にもずいぶん役立てています。

〈病名〉

## 膵臓癌（肝臓、肺、腹膜転移）

〈症状〉

2015.11 福岡県福岡市 S 病院にて膵臓癌が発覚。

2015.12 抗がん剤治療を行う。

2016.3 肝臓、肺、腹膜に転移が認められ、余命 3 カ月と診断され、緩和治療を勧められる。

氏名： K.H.	性別： 男	年齢： 53 才	病院・医師名： ぴよんぴよん P.
----------	-------	----------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2016.5.22 当院にて AWG 自主治療を開始。

黄疸症状も見受けられた。

- ・食欲が無く、固形物を受け付けず、嘔吐、下痢を繰り返していたが、背中の痛みは AWG 開始直後から緩和し、1 週間ほどでほぼ解消し、4 日後くらいから徐々に食欲が出て、1 週間後には通常の食事ができるようになった。  
黄疸症状も消えて、腹水の痛みもその日の体調、食事内容などで波はあったが、2 週間ほどでほぼ解消した。

2016.7 食欲、気力、体力が回復し、腹水内の癌細胞を取り除く治療を行うため入院。

かなり体力を消耗し、痛みも出た為、退院し AWG により 3 日ほどで痛みが取れました。

2016.8 AWG による緩和治療を行う為、A 病院に入院。

談話

- ・入院直後は体力も落ちて、全身に痛みがあり辛い時でした。  
背中の痛みは 1 週間ほどで取れましたが、腹水の痛みは徐々に取れていき、完全に取れるまでに 1 カ月ほどかかりました。

〈病名〉

## 腺囊胞癌

〈症状〉

2005.5 福岡県福岡市 H 病院にて腺囊胞癌が発覚。

2005.6～2011.10まで、肺、肝臓に転移が認められ、手術を行いながら、60回にわたり放射線治療を行うが、2014.9 余命3ヶ月と言われ、仕事を辞め実家に戻る。

氏名： T.M.	性別： 女	年齢： 47 才	病院・医師名： ぴよんぴよん P.
----------	-------	----------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2015.1 当院にて7日～14日に一度、延べ28回のAWG 自主治療を行う。

- ・胸椎、腰椎の痛みが激しく、酸素吸入機器を装着しての治療でしたが、治療中は痛みが取れ、呼吸もかなり楽で、周りの方と談笑するほどだった。特に、骨周りの痛み、身体全体を締め付けるような痛みがかなり楽になった。

2016.5 体力を考え、自宅でのAWG治療に切り替える。

### 談話

- ・癌発覚から12年、自分のやりたい治療を続け、悔いはないと思います。痛み緩和のコードを取り入れて治療すると楽になり、自分に合ったコードがだんだんわかるようになりました。  
最近は痛みが出る直前に取り入れるようになりつつあり、かなり楽になりました。

〈病名〉

## 乳癌（リンパ、皮膚、骨、胸膜、肺転移）

〈症状〉

2013.1 乳癌が発覚。 2013.2 福岡県福岡市 H 病院にて全摘手術。同抗がん剤治療。

2013.8 リンパ転移が発覚。熊本市 M 病院にて手術。同抗がん剤治療。

2014.12 骨、皮膚、胸膜に転移が発覚。余命 3 カ月と診断される。

2015.1 より様々な民間療法、免疫療法を始める。

氏名： Y.H.	性別： 女	年齢： 54 才	病院・医師名： ぴょんぴょん P.
----------	-------	----------	-------------------

〈AWG 使用前後の経緯〉

2015.2 当院にて AWG 治療を開始。

皮膚の張り痛、胸骨の痛み、咳、呼吸等がかなり改善される。

2015.3 より自宅での AWG 治療に切り替える。

1 カ月ほどで、上記全ての痛みがほぼ改善された。

2015.7 免疫療法の医師が驚くほど数値が改善された。

2015.8 福岡県福岡市 S 病院にて分子標的抗癌治療。

### 談話

・ AWG を始めて一番喜んでいることは、痛みの緩和でした。

一時期は本当に元気になり、パートでもいいから働きたいと言って周囲を困らせたこともありました。

乳癌の摘出後の皮膚のツッパリ感、皮膚癌、胸膜の転移癌の痛みは、本当につらく、激痛で眠れませんでした。

今は鎮痛剤に全く頼らずに、AWG で何のコードをかけても痛みが止まります。

## 導入しているクリニック・医師 (五十音順)

天城診療所 … 芝田 茂文  
大分リハビリテーション病院 … 立花 秀俊  
かしま歯科医院 … 鹿島 隆正  
くわのすずき内科クリニック … 鈴木 聰  
皿沼クリニック … 藤田 亨  
武田内科胃腸科医院 … 武田 義雄  
つつじが丘診療所 … 伊藤 喜一  
難波波動診療所 … 難波 義治  
西原研究所 … 西原 克成  
LLP ぴょんぴょんプロジェクト… 白木 るい子  
二口子供医院 … 二口 総一郎  
増田歯科医院 … 増田 和人  
みたかヘルスケアクリニック … 福島 健  
茂原機能クリニック … 伊藤 豊